

平成28年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「プロジェクト型」の共同研究 研究報告書

平成29年4月21日現在

研究課題名	ユーラシア地域大国における聖地の比較研究				
申請者 (代表者)	氏名		所属機関・職		
	杉本良男		国立民族学博物館・名誉教授		
研究構成員		氏名	所属機関・職	専門分野	役割分担
	1	杉本良男	民博・名誉教授	社会人類学	総括、インド
	2	望月哲男	北大・名誉教授	近代ロシア研究	ロシア
	3	川口幸大	東北大・准教授	文化人類学	中国
	4	小林宏至	山口大・准教授	文化人類学	中国
	5	松尾瑞穂	民博・准教授	文化人類学	インド
	6	宇山智彦	北大スラブ研・教授	中央アジア研究	アドバイザー

研究成果の概要

本プロジェクト予算で3回の研究会を開催した。

第1回

日時：2016年7月28日（木）15:00-18:00

場所：北大スラブ・ユーラシア研究センター4階小会議室（401）

報告：河合洋尚（民博）、小林宏至、井田克征（金沢大）

第2回

日時：2017年1月22日（日）13:30-18:00

場所：東北大学川内南キャンパス文学部棟2階大会議室

報告：高橋沙奈美（スラブ研）、櫻間 瑛（東大）、望月哲男、川口幸大

第3回

日時：2017年3月29日（水）13:30-18:00

場所：北大スラブ・ユーラシア研究センター4階小会議室（401）

「総括-ユーラシア地域大国における聖地の比較研究」

「趣旨説明」杉本良男

第一部「地域から比較へ」高橋沙奈美、前島訓子（名大）、小林宏至

第二部「聖地論の視座」河合洋尚、井田克征、川口幸大

「総括」杉本良男

研究成果の概要（続き）

本研究は、北海道大学スラブ研究センターの新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」（2008-13年）の派生的発展型として構想された。対象地域を、ロシア、中国、インドの「ユーラシア地域大国」に限定し、基本的に社会的視点に立つ比較研究である。本研究を通じて、西欧的聖・聖性概念を根本的に問い直し、宗教研究が畢竟西欧キリスト教世界を唯一無二のモデルとして展開されてきたことに対する根本的な批判を目的とした。また、本研究に関連して、国立民族学博物館共同研究「聖地の政治経済学-ユーラシア地域大国における比較研究」（杉本良男、平成25～28年度）が行われた。

本プロジェクトを通じて、硬軟取り混ぜながらも「社会主義体制」を経験したこれら3地域における宗教・聖概念や、グローバル経済化による聖地化・観光化について、歴史性・地域性、社会性・政治性が色濃く反映されており、それが各地域それぞれの独自性を演出するとともに、これら3地域に通底する共通の問題を指摘することができた。それは、これらの地域における宗教事情が、良くも悪くも、西欧キリスト教世界、資本主義体制を過度に意識することからくる屈折した状況が生み出されているからである。

本研究を通じて、「ユーラシア地域大国」概念そのものが持つ、西欧批判としてすぐれて有効な概念であることと、大きな物語を過剰に意識した対抗概念であることからくる内在的な限界をもつことがともに理解された。それはいずれも、本研究の成果は、聖地に限定されない幅広い西欧世界批判の視座を提供するものである、というのがわれわれの到達点である。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）

現在、国立民族学博物館共同研究「聖地の政治経済学-ユーラシア地域大国における比較研究」と合わせて、研究成果を公刊する予定で、全体の3分の2の原稿が集まり、編集作業中である。

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

本プロジェクトの成果を踏まえて、ユーラシア地域大国概念を維持しながら、平成29年度科学研究費へ応募する予定である。

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。